

「第3期データヘルス計画及び第4期特定健康診査等実施計画」は、高槻市国民健康保険被保険者の健康増進及び医療費適正化を目的として、医療情報や特定健康診査データ等から被保険者の健康課題を分析し、効果的かつ効率的な保健事業の実施を図るための計画です。

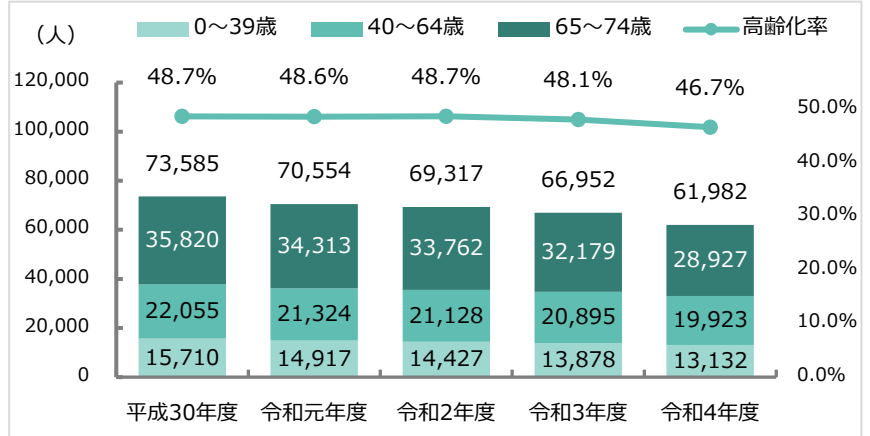
被保険者(国保加入者)の現状

<被保険者数等の推移>

平成30(2018)年度以降、少子高齢化や被用者保険の適用の拡大等により、国民健康保険被保険者数は減少しており、令和4(2022)年度の被保険者数は61,982人、高齢化率は46.7%となっています。

年齢階級別に被保険者の構成比をみると、被保険者は60～74歳が全体の約54.4%を占めています。

図1 年齢階級別の被保険者数および高齢化率の推移

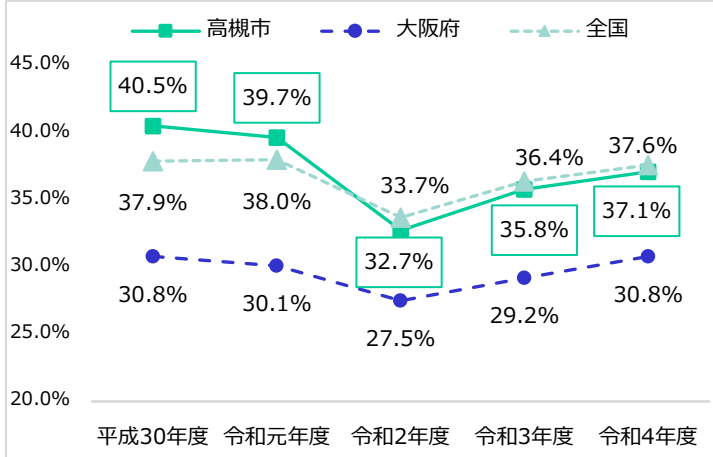


資料:KDB「被保険者構成」

データ分析と健康課題・目標

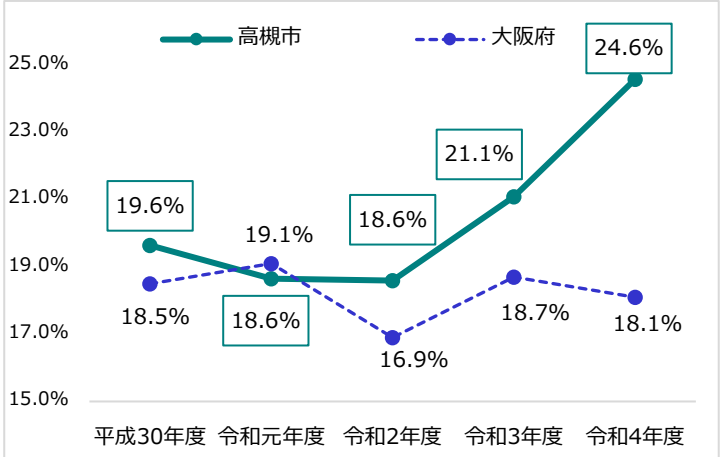
<特定健診・特定保健指導の状況>

図2 特定健診受診率の推移



資料:「法定報告データ」及び大阪府国民健康保険団体連合会資料

図3 特定保健指導実施率の推移



資料:同左

特定健診受診率は、平成30(2018)年度から令和4(2022)年度にかけて3.4ポイント減少しています。

特定保健指導実施率は、令和2(2020)年度から4(2022)年度にかけて上昇傾向ですが、目標は下回っています。

課題① 特定健診受診率・特定保健指導実施率の向上

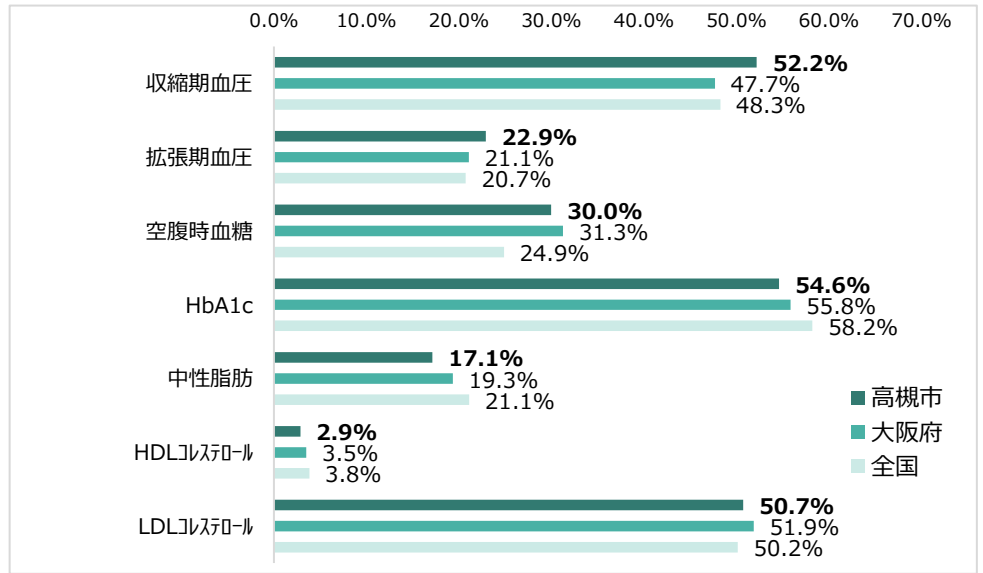
評価指標	目標 (令和11(2029)年度)
特定健診受診率	47.0%
特定保健指導実施率	38.0%
特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率(前年度比較)	計画策定時値(21.2%)以上

<健診項目別の有所見者割合>

令和4(2022)年度の特定健診結果の各項目について、有所見者※割合を示しました。「HbA1c」が最も高く、次いで「収縮期血圧」となっています。特に「収縮期血圧」については大阪府・全国より高くなっています。

※有所見者…健診結果に何らかの異常所見が認められた受診者。

図4 健診項目別の有所見者割合



資料:KDB「地域の全体像の把握」(令和4(2022)年度分)

<主要疾患の医療費推移>

平成30(2018)年度と令和4(2022)年度の主要疾患の医療費の推移を比較すると、「心筋梗塞」、「動脈硬化症」といった血管に関する疾患の医療費が増加しています。

※また、「筋・骨格」の医療費構成比が大阪府・全国と比較して高くなっています。

※課題⑤に関連

表1 主要疾患の医療費推移

分類	平成30年度		令和4年度				医療費増加率 (平成30年度 →令和4年度)
	医療費(千円)	構成比	高槻市		大阪府	全国	
			医療費(千円)	構成比	構成比	構成比	
悪性新生物(がん)	3,969,537	27.7%	4,073,091	31.4%	32.6%	32.0%	2.6%
筋・骨格	2,559,316	17.9%	2,390,114	18.5%	17.5%	16.6%	-6.6%
心筋梗塞	63,063	0.4%	68,782	0.5%	0.8%	0.7%	9.1%
狭心症	420,976	2.9%	238,587	1.8%	2.0%	2.1%	-43.3%
動脈硬化症	34,819	0.2%	37,994	0.3%	0.3%	0.2%	9.1%
脳梗塞	400,785	2.8%	340,215	2.6%	2.6%	2.7%	-15.1%
脳出血	195,631	1.4%	183,732	1.4%	1.4%	1.3%	-6.1%
高血圧症	897,118	6.3%	675,847	5.2%	5.6%	5.8%	-24.7%
糖尿病	1,491,590	10.4%	1,337,150	10.3%	9.8%	10.4%	-10.4%
脂質異常症	737,612	5.2%	539,813	4.2%	4.2%	4.0%	-26.8%
慢性腎臓病(透析有)	1,398,493	9.8%	1,215,290	9.4%	9.6%	8.3%	-13.1%
慢性腎臓病(透析無)	88,249	0.6%	72,513	0.6%	0.6%	0.6%	-17.8%

資料:KDB「地域の全体像の把握」

<疾病別医療費状況>

令和4(2022)年度の1件当たり医療費上位10疾病を分析したところ、生活習慣病に関連するものでは「脳内出血(3位)」、「腎不全(7位)」が高額であることが分かりました。

また、医療費上位10疾病を分析すると、「腎不全(1位)」、「糖尿病(3位)」が上位となっています。

表2 1件当たり医療費上位10疾病

順位	疾病中分類	1件当たり医療費(円)
1	白血病	499,361
2	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	423,469
3	脳内出血	409,203
4	気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	378,498
5	その他の周産期に発生した病態	359,849
6	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	359,303
7	腎不全	349,425
8	その他のウイルス性疾患	335,501
9	くも膜下出血	330,457
10	肺炎	302,845

資料:KDB「疾病別医療費分析(中分類)」(令和4(2022)年度分)

表3 医療費上位10疾病

順位	疾病中分類	医療費(円)
1	腎不全	1,578,002,270
2	その他の悪性新生物<腫瘍>	1,453,296,500
3	糖尿病	1,387,583,440
4	その他の心疾患	1,307,754,330
5	その他の消化器系の疾患	950,499,760
6	その他の神経系の疾患	821,531,470
7	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	818,025,700
8	その他の眼及び付属器の疾患	774,561,310
9	高血圧性疾患	675,513,130
10	気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	659,722,870

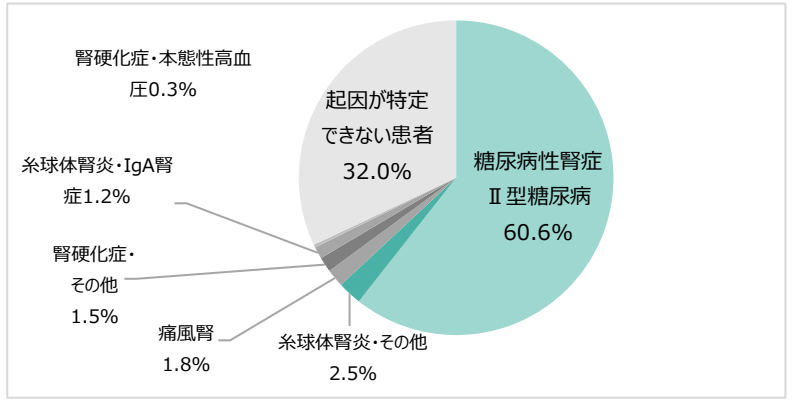
資料:同左

<人工透析の起因疾患>

人工透析に至った起因をレセプトに記載されている傷病名から分析しました。分析の結果、人工透析患者 325 人のうち、**60.6%(197 人)がⅡ型糖尿病を起因として透析となる、糖尿病性腎症であることが分かりました。**

また、透析患者にかかる 1 人当たり医療費は、約 375 万円と非常に高額となっています。

図5 人工透析の起因疾患



資料:電子レセプトデータ(令和4(2022)年度分)

<脂質異常該当状況>

令和4(2022)年度の健診結果における脂質異常該当状況と治療状況を示しました。早期受療が必要である **LDL コレステロール 180 以上に該当する人のうち、未治療(脂質異常症及び関連疾患疾患受療なし)と考えられる人が 46.2%存在することが分かります。**

表4 脂質異常該当状況

LDLコレステロール値の分類	該当者数(人)	脂質異常症受療あり投薬あり	脂質異常症受療あり投薬なし	脂質異常症及び関連疾患受療なし
保健指導判定値以上	7,998	1,856	3,001	3,141
180以上	630	158	181	291
140~179	3,632	728	1,363	1,541
120~139	3,736	970	1,457	1,309
				…LDLコレステロール140以上で未治療者の割合→
				43.0%
				…LDLコレステロール180以上で未治療者の割合→
				46.2%

資料:電子レセプトデータ(令和4(2022)年度分)

- 課題② 高血圧の人が多く、血管に関する疾患の医療費が高い
- 課題③ 高血糖の人が多く、腎不全や糖尿病の医療費が高い
- 課題④ 脂質異常該当者で治療していない人の割合が高い

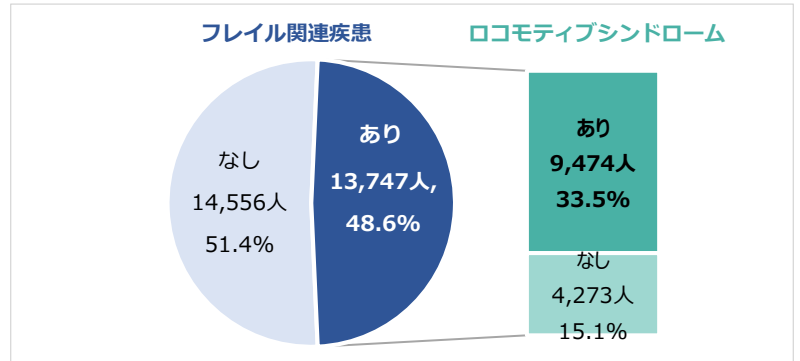
評価指標	目標(令和11(2029)年度)
収縮期血圧が保健指導判定値以上の者の割合	評価時大阪府平均を下回る*
Ⅱ度又はⅢ度高血圧の者のうち、高血圧症のレセプトがない者の割合	計画策定時値(40.8%)以下
HbA1c8.0%の者の割合	計画策定時値(1.3%)以下
HbA1c6.5%以上の者のうち、糖尿病レセプトがない者の割合	計画策定時値(12.1%)以下
LDLコレステロール180以上の者のうち、脂質異常症のレセプトがない者の割合	計画策定時値(60.5%)以下

※(参考)令和4(2022)年度の大阪府平均:47.7%

<ロコモティブシンドロームの状況(65歳以上)>

フレイル(加齢に伴って、筋力や認知機能等が低下した状態)関連疾患に罹患している65歳以上の被保険者の状況を示しました。**フレイル関連疾患に罹患している13,747人のうち、9,474人(全体の33.5%)がロコモティブシンドローム(運動機能の障害により移動能力が低下した状態で、要介護リスクを高める要因となる)に該当しています。**

図6 フレイル関連疾患におけるロコモティブシンドロームの状況(65歳以上)



資料:電子レセプトデータ(令和4(2022)年度診療分)

課題⑤ 筋・骨格系疾患、ロコモティブシンドローム罹患者が多い

評価指標	目標(令和11(2029)年度)
30分以上の運動習慣のない者の割合	計画策定時値(53.9%)以下
1時間以上の歩行又は身体活動実施がない者の割合	計画策定時値(44.4%)以下

<重複・多剤服薬者の状況>

表5 重複・多剤服薬者の状況

	0～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 74歳	全体
重複服薬者数 (人)	28	27	46	89	151	341
多剤服薬者数 (人)	9	17	23	34	34	117

資料:電子レセプトデータ(令和4(2022)年度分)

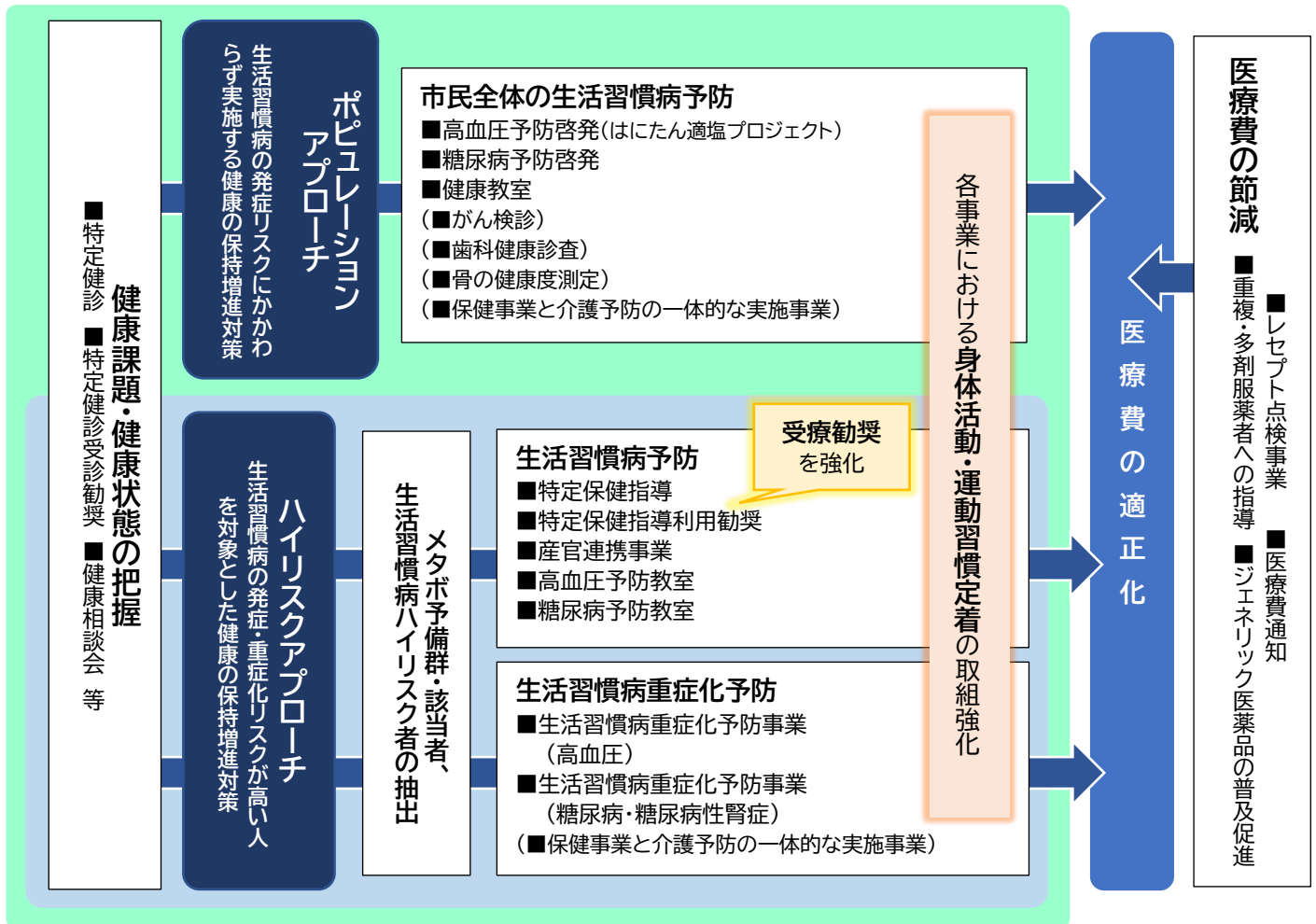
令和4(2022)年度データでは、**1か月間に同系医薬品を2医療機関以上から処方されている重複服薬者が341人、1か月間に7種類以上の医薬品を処方されている多剤服薬者が117人存在します。**

課題⑥ 重複・多剤服薬者が一定数存在する

評価指標	目標 (令和11(2029)年度)
重複・多剤服薬の該当者数(年間)	計画策定時値(458人)以下

事業の全体像

上記の目標を達成するため、健康課題に対する保健事業を下記のとおり実施します。継続的に事業の進捗・成果の評価を行い、効果的・効率的に実施していきます。



計画全体の目標：被保険者の健康の保持増進と医療費適正化

毎年必ず特定健診を受診し、結果に応じて、生活習慣を改善したり医療機関を受診しましょう！

